

令和 6 年 6 月 25 日現在

機関番号：35314

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2021～2023

課題番号：21K02398

研究課題名（和文）ニュージーランド保育指針テ・ファーリキの非認知能力育成論に関する学際的研究

研究課題名（英文）Interdisciplinary research into the theory of non-cognitive skills development in Te Whariki, the New Zealand early childhood curriculum

研究代表者

大橋 節子（大橋節子）（Ohashi, sestuko）

環太平洋大学・次世代教育学部・教授

研究者番号：80713073

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では心理学と教育学の研究者が学問の壁を越えて連携・協働し、テ・ファーリキ（英語版）の日本語翻訳と出版を行い、お互いの知見と研究手法を駆使してテ・ファーリキにおける非認知能力育成の論理を解明し、その論理に基づく我が国の保育者向けの研修プログラム開発を行なった。特にテ・ファーリキの翻訳については、2021年9月に大橋節子・中原朋生・内田伸子・上田敏文監訳・編著『ニュージーランド乳幼児教育カリキュラム テ・ファーリキ（完全翻訳・解説）—子どもが輝く保育・教育のひみつを探る—』を出版し研究成果を広く発表した。さらに2023年9月には研究成果に基づく保育者向けの研修プログラムも実施した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、ニュージーランド保育研究において、どの研究グループも成し得なかったテ・ファーリキ（英語版）の全翻訳と出版を成し遂げ『ニュージーランド乳幼児教育カリキュラム テ・ファーリキ（完全翻訳・解説）—子どもが輝く保育・教育のひみつを探る—』として研究成果を広く発表した点にある。今後、ニュージーランド保育に関する研究は、すべて本書を先行研究として参照することになると考える。また、本書は広く一般の保育者にも読んでいただけるように、本研究に基づく解説も付しており、日本の保育に資する研究成果としての社会的意義も高いと考える。

研究成果の概要（英文）：In this research, researchers from psychology and education collaborated across disciplinary boundaries. The following activities were undertaken in this research project:1. The English version of Te Whariki was translated into Japanese and published.2. Using each other's knowledge and research methods, the logic behind the development of non-cognitive skills in Te Whariki was elucidated.3. A training program for childcare workers in Japan was developed based on that logic.

研究分野：子ども学

キーワード：ニュージーランド保育 テ・ファーリキ 非認知能力 カリキュラム編成 ストランド プリンシパルラーニング・ストーリー

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

本研究の着想に至った発端は、本研究グループが2018年に行ったニュージーランド現地におけるテ・ファアリキ2017年版の改訂状況と保育関係者の受けとめに関する現地調査である。大橋節子・内田伸子・上田敏丈・中原朋生の4名は調査結果を「ニュージーランド保育関係者は2017年テ・ファアリキ改訂をどのように捉えたか」(2018)として審査合格論文にまとめるとともに、研究対象としてのテ・ファアリキの奥深さと我が国における応用可能性を認識した。

研究代表である大橋節子は、1990年にニュージーランド初の私立大学として開学したIPUNZに開学当初より関わり、環太平洋大学とともに2018年から同大学の学長も兼務していた。大橋はニュージーランドにおける30年の現地教育の経験から、ニュージーランド教育省をはじめ、現地の保育関係者や保育施設とも信頼関係を築き、協働研究を展開する準備を整えていた。特にテ・ファアリキの日本語翻訳版については、2020年8月にニュージーランド教育省に正式に日本語翻訳とその出版に関する正式な許諾申請を行うとともに、大橋がリーダーとなり本研究の4名のメンバーとIPUNZの現地スタッフが、ニュージーランド教育省幼児教育部とZOOM会議を行い、この4名の専門性をご理解いただき正式な許諾を得た。

本研究は、以上のような周到な準備に基づき、本格的なテ・ファアリキの分析研究とそれを日本の保育者に還元する研修プログラムの開発研究を展開した。

2. 研究の目的

本研究は心理学と教育学の研究者が学際的に協働し、保育先進国として知られるニュージーランド乳幼児教育カリキュラム「テ・ファアリキ」における非認知能力育成の論理を解明し、その論理に基づく我が国の保育者向け研修プログラム開発をめざした。このため、以下の研究活動に取り組んだ。

A:テ・ファアリキの背景にある子ども観・発達論の解明

B:テ・ファアリキの目標・方法・内容・評価のカリキュラム全体構造の解明

C:テ・ファアリキにおける非認知能力育成の位置付けとその論理の解明

D:A Cの研究活動を踏まえた「我が国の保育者向け研修プログラム開発」

3. 研究の方法

本研究で全体計画と役割分担に基づき3年間で以下の研究活動を展開した。

(1)テ・ファアリキの先進性の明確化(主に1年目の研究活動)

1年目はテ・ファアリキの先進性を明らかにした。まず1996年版(第1版)から2017年版(第2版・最新版)から変化していない4つの方法原理(エンパワメント・ホリスティックな発達・家族とコミュニティー・関係性)と5つの要素(ウェルビーイング・帰属感・貢献・コミュニケーション・探究)の背景にある子ども観・発達論を分析した。

さらに4つの方法原理と5つの要素を織り交ぜるカリキュラム編成論と保育現場における実際の運用状況について分析を展開した。さら2017年の最新版において導入されたレジリエンス、最新の脳科学に基づく発達論、シティズンシップ(市民性)について検討を行いテ・ファアリキの先進性を明らかにした。

具体的には、ニュージーランド乳幼児教育カリキュラム『テ・ファアリキ』の翻訳研究を行い、全訳を果たすとともに、解説を付す形で研究成果を出版し公表した。

(2)テ・ファアリキ非認知能力育成論の解明(主に2年目の研究活動)

2年目は1年目の研究成果に基づき、テ・ファアリキが育成を目指す非認知能力の抽出と類型化を行った。特に4つの方法原理(エンパワメント・ホリスティックな発達・家族とコミュニティー・関係性)における非認知能力育成の方法論の意義を分析した。また5つの要素(ウェルビーイング・帰属感・貢献・コミュニケーション・探究)における非認知能力育成の目標、内容、評価の理論の抽出を行なった。特に帰属感と貢献の要素は、我が国にない発想として分析した。

(3)「日本の保育者向け研修プログラム開発」(主に3年目の研究活動)

3年目はこれまでの研究活動を踏まえて、研究成果を保育者研修プログラムとしてまとめた。研修の目標は、テ・ファアリキにおける非認知能力育成の内容と方法を学ぶことによって、鏡のように自己の保育を省察し保育をリフレッシュすることである。研修プログラムとともにニュージーランド保育に関するリーフレットも作成した。

4. 研究成果

(1)ニュージーランド乳幼児教育カリキュラム『テ・ファアリキ』の翻訳研究

本研究の最大の成果は、ニュージーランド教育省からの正式な許諾を得て同国の乳幼児教育に関するナショナル・カリキュラムである『テ・ファアリキ』(2017年版)を全訳し解説を付して出版したことである。研究の成果は、大橋節子・中原朋生・内田伸子・上田敏丈監訳・編著者『ニュージーランド乳幼児教育カリキュラム テ・ファアリキ(完全翻訳・解説) - 子どもが輝く保育・教育のひみつを探る -』建帛社2021年として出版し、広く社会に公表することができた。本書の構成は以下の通りである。

序章「今なぜニュージーランド保育なのか - 『テ・ファーリキ』(2017改訂版)完全翻訳に至る背景と思い - 」(大橋節子・環太平洋大学)

第1部 全訳編

・はじめに

・序論

・第1章 原理(プリンシパル)

・第2章 要素(ストランド)、目標、学びの成果

・第3章 学校(小中高)やクラ(指導言語がマオリ語でマオリの文化や価値観を基盤とする学校)への道しるべ

・第4章 カイアコ(保育者)の責任

・第5章 理論とアプローチの基礎

・第6章 アセスメント、計画、評価

・テ・ファーリキ:2つの道しるべ

第2部

・第7章 「テ・ファーリキのカリキュラム・フレームワーク理論と背景 - 二文化主義に基づく『マナ』の育成 - 」(中原朋生・環太平洋大学)

・第8章 「学びの物語 - ラーニング・ストーリーによる保育記録と園の実例 - 」(内田伸子・環太平洋大学・お茶の水女子大学名誉教授)

・第9章 「ニュージーランド保育者は何を大切にしているか」(上田敏丈・名古屋市立大学)

序章「今なぜニュージーランド保育なのか - 『テ・ファーリキ』(2017改訂版)完全翻訳に至る背景と思い - 」では、本研究グループの代表である大橋節子(環太平洋大学)が、ニュージーランドの環境と精神文化、評価と価値といった視点から、『テ・ファーリキ』の背景にあるニュージーランドの教育文化の全体像を解説した。

第7章 「テ・ファーリキのカリキュラム・フレームワーク理論と背景 - 二文化主義に基づく『マナ』の育成 - 」では、研究分担者の中原朋生(環太平洋大学)がテ・ファーリキの成立過程、子ども観、4つの原理(プリンシパル)、5つの要素(ストランド)とカリキュラムの構成原理に関する解説を行なった。

第8章 「学びの物語 - ラーニング・ストーリーによる保育記録と園の実例 - 」では研究分担者の内田伸子(環太平洋大学・お茶の水女子大学名誉教授)がニュージーランド保育における独自の保育記録であるラーニング・ストーリーについて、テ・ファーリキのアセスメント(保育評価)の考え方、ラーニング・ストーリーの実態、公的アセスメント情報に基づく保育の質の向上を視点に解説を行なった。

第9章 「ニュージーランド保育者は何を大切にしているか」では、テ・ファーリキにおける保育者の位置づけ、テ・ファーリキにあらわされる保育者の子どもへの眼差しを視点にニュージーランドの保育者の特長について解説を行なった。

以上のように本研究では、ニュージーランド乳幼児教育カリキュラム『テ・ファーリキ』を完全翻訳することで、従来の研究を超えた『テ・ファーリキ』の背景、カリキュラム編成、子ども観、保育記録、保育者論についてトータルに研究し、その成果を公表することができた。

(2) ニュージーランド保育を基盤とした保育者研修プログラム開発

本研究のまとめとして、ニュージーランド保育を基盤とした保育者研修プログラムを開発し、試行的に2023年9月に研修会を実施した。研修会には保育関係者を中心に92名の参加者があり、「なぜ、いまニュージーランド乳幼児教育カリキュラム『テ・ファーリキ』なのか」、「ニュージーランド保育関係者が語るニュージーランドの保育」、「ニュージーランドにおける遊びを通じた保育の実態(環境・遊び・記録)」の3つの内容からなる研修プログラムを実施した。特に「ニュージーランド保育関係者が語るニュージーランドの保育」では、ニュージーランド現地において保育者として活躍する日本人保育者にZOOM出演していただき、ニュージーランド保育における保育計画、環境構成、保育実践、保育記録に関する具体的な論理と実際を知ることができた。

本研究ではこれらの成果を『ニュージーランド保育から日頃の保育をリフレッシュ』というリーフレットにまとめ、研修用の教材も作成し、広く社会に研究成果を公表した。

5. 主な発表論文等

[学会発表]

上田敏丈・中坪史典「保育の見守る場面における『最小限の一時介入』」日本質的心理学会第19回大会

〔図書〕

- ・大橋節子・中原朋生・内田伸子・上田敏丈監訳・編著者『ニュージーランド乳幼児教育カリキュラム テ・ファーリキ（完全翻訳・解説） - 子どもが輝く保育・教育のひみつを探る - 』建帛社 2021 年.
- ・内田伸子『想像力』春秋社 2022 年.
- ・中原朋生「幼児教育における市民性育成カリキュラムの編成原理とアセスメントの実際 - ニュージーランド保育指針『テ・ファーリキ』を手がかりに - 」『社会系教科の評価をめぐる理論と実践』風間書房 2023 年,pp37-56.

6.研究組織

研究代表者氏名:大橋 節子

ローマ字氏名:OH A S H I, Setsuko

所属研究機関名:環太平洋大学

部局名:次世代教育学部こども発達学科

職名:教授・学長

研究者番号(8 桁): 80713073

研究分担者氏名:中原 朋生

ローマ字氏名:N A K A H A R A, Tomoo

所属研究機関名:環太平洋大学

部局名:次世代教育学部こども発達学科

職名:教授

研究者番号(8 桁): 30413511

研究分担者氏名:上田 敏丈

ローマ字氏名:U E D A, Harutomo

所属研究機関名:名古屋市立大学

部局名:大学院人間文化研究科

職名:教授

研究者番号(8 桁): 60353166

研究分担者氏名:内田 伸子

ローマ字氏名:U C H I D A, Nobuko

所属研究機関名:環太平洋大学

部局名:次世代教育学部こども発達学科

職名:教授

研究者番号(8 桁): 70017630

以上

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

| | |
|--|-------------------------|
| 1. 著者名 Fuminori Nakatsubo; Harutomo Ueda; Misa Kayama | 4. 巻 50 4 |
| 2. 論文標題 Why Don't Japanese Early Childhood Educators Intervene in Children's Physical Fights? Some Characteristics of the Mimamoru Approach | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 Early Childhood Education Journal | 6. 最初と最後の頁 627 - 637 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

| |
|-----------------------------------|
| 1. 発表者名 上田敏丈; 中坪史典 |
| 2. 発表標題 保育の見守る場面における「最小限の一時介入」 |
| 3. 学会等名 日本質的心理学会第19大会 |
| 4. 発表年 2022年 |

〔図書〕 計2件

| | |
|-----------------|-----------------|
| 1. 著者名 内田 伸子 | 4. 発行年 2023年 |
| 2. 出版社 春秋社 | 5. 総ページ数 320 |
| 3. 書名 想像力 | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 大橋 節子、中原 朋生、内田 伸子、上田 敏丈 | 4. 発行年 2021年 |
| 2. 出版社 建帛社 | 5. 総ページ数 144 |
| 3. 書名 ニュージーランド乳幼児教育カリキュラム テ・ファーリキ（完全翻訳・解説） | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|---|--|----|
| 研究分担者 | 中原 朋生 (NAKAHARA Tomoo) (30413511) | 環太平洋大学・次世代教育学部・教授 (35314) | |
| 研究分担者 | 上田 敏丈 (UEDA Harutomo) (60353166) | 名古屋市立大学・大学院人間文化研究科・教授 (23903) | |
| 研究分担者 | 内田 伸子 (UCHIDA Nobuko) (70017630) | 環太平洋大学・次世代教育学部・教授 (35314) | |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
|---------|---------|